



### 新任の挨拶

OB会新会長  
桑沢俊猛(54期)

平成五年七月十日、上中・松尾・上田、三代のOB六十余名が参加しOB会設立総会を開催、昭和四十八年から活動してきた後援会がOB会として発足する事になりました。会報「剣風」を十月に発行し、毎回数七部を配布しております。今年十月、十年を迎えました。

OB会の目的は、会員の親睦と上田高校剣道班の活動を後援する事であり、後援活動については充分とはいかないまでも現状には答えていると思います。

さて、もう一方の親睦を図るための総会を盛会にするには総会の内容とその前後に組む企画如何といえます。総会前のOBと現役生の稽古会、これは年令差も越えて集える素晴らしい場があります。これは永久に続けられるでしょう。そして来年からは現役生の男女別勝ち抜き戦を加える予定です。

総会の前に今年十周年を記念する、意味もあり講演会を開きました。

講師はOBの東京医科大学、内科教授宮坂信之(64期)さんで「生活習慣病について」でした。興味深い内容と軽妙な話術にみな大喜びでした。

質問時間は爆笑を誘う遣り取りでそれからあとの懇親会まで盛り上がりました。その懇親会の席に楽しみが増えました。プロのマジシャンの登場です。OB会役員で



宮坂教授の講演

宮坂教授の講演  
OB会役員で  
質問時間は  
爆笑を誘う  
遣り取りで  
それからあ  
との懇親会  
まで盛り上  
がりました  
その懇親会  
の席に楽し  
みが増えま  
した。プロ  
のマジシ  
ヤンの登  
場です。OB  
会役員で

「剣風」  
題字:細川武敏(41期)筆  
OB会報第11号  
平成15年12月1日発行  
制作:c b 鼓 囃 子

もある矢嶋智弘(88期)さんで実際にプロのマジシャン、しかしその実態は丸子町のれつきとした歯医者さんなのです。近くで観ても遠くで見てもマリツクはだし、ずっと続けて戴きたいものです。翌日は、竹刀をクラブに替えてゴルフコンペとなりました。告知が充分で無かったのか参加は十二人と少なかつたですが、結構楽し盛り上がりしました。

後日、来年は参加すると言う方も有りましたので計画に入れたいものです。一方十年という年月は、我々OB会員にとって大切な方との別れの訪れも少なくありませんでした。初代の剣道班顧問・横谷和光先生、最後の後援会長・村上和夫顧問(34期)、松尾高校剣道クラブ時代から稽古をつけて下さった塚原忠雄顧問(36期)そして今年の後援活動と指南をして下さった宮下力顧問(38期)、剣道班元顧問・平松剛先生です。

### 宮下 力を偲んで

四四―四期 宮下英世

長年にわたり上田高校剣道部OB会の役員をしてお世話になりました。今年四月五日他界しました。上中三八回生で多くの友を戦争で失いましたが、長いシベリア抑留生活から運よく生還しました。

八十年の人生で、多くの職を経験してきましたが、ただ一つ精進を重ねてきたことは剣道一途の生き方であったといえます。

上田中学時代に、初段、二段、蚕専(現織維学部)時代で三、四段、昭和三十年前後に五段、錬士号と居合道四段、三十三年に六段、五十二年に七段を全日本剣道連盟から免許されています。そして八段を京都に行つて取得しようとした六十一年に脳硬塞で倒れてしまい、以後道場に立つことが不可能となつてしまいました。

上中、蚕専時代前後の剣道部はよき師に恵まれ、大変強剛揃いでしたが、共に主将として多くの大会で成果を上げておりました。

### 訃報

宮下 力(OB会顧問(38期))

旧後援会副会長として戦後の剣道部を指導していただいたばかりでなく上田地域剣道界の中心として活躍された。今年四月五日逝去。

平松 剛先生(剣道班元顧問)

先生は昭和42、52年顧問として班員の指導と後援会名簿作成にご尽力を頂いた。今年一月九日逝去。

五段や錬士号取得のときは有名な範士高野佐三郎先生の道場入門して練習していたように記憶しております。

また、日本刀にも興味を持ち、多くの書物を求めて学び、鑑定する力もつき、収集する興味もありました。

月刊誌剣道時代(体育とスポーツ社)は何十年も購読したり、日本武道大系なども愛読し、座右の銘としておりました。

四十代から六十代までは、多くのボランティア活動をしておりました。母校である上田高校や織維学部をはじめ、東部高校、塩田中学、警察署、諸大学の夏の合宿、ママさん剣道、諸大会の審判等、家庭のことなど気にしない只管剣道の日々でありました。

私とは年が七つも離れており兄と直接剣道はしませんでした。昭和十六年に武徳殿で中学生以上のトーナメント戦があり、決勝に残ったのが蚕専の兄と中学五年の兄でした。非常に長い試合の結果、力兄が優勝しましたが、観客の多くは試合後兄弟対決であることがわかり驚いていたことを思い出します。

私達男三人とも上中の剣道部で、ご立派だった伊藤藤三郎先生の薫陶を受け、毎日の練習はもとより寒稽古などに没頭したことにより人間形成の礎をつくっていただいたことをありがたく感謝しております。

昔と今の学校生活は異なりましたが、上田高校剣道部の発展とOB会の皆様方のご多幸を亡き兄共々ご祈念申し上げます。思い出の文にさせていただきます。

### OB会に参加して

清水千映子(98期)

6月22日、初めてOB会に参加させていただきました。私は、OBとしてこの場に加わられたことをうれしく思いました。というのは、剣道を通じて多くの人々とながつていると感じたからです。その心強さと、自分は上田高校で剣道をしたのだという実感が、また剣道を始めたという気持ちの後押しをしてくれました。そして、私は今年大学に入学して、少しずつ始めています。皆が同じことに取り組み空間は、懐かしく、なぜか自分の居場所と思えました。それは、剣道班での自分がそうだったからでしょう。そして、あらためて剣道の難しさを感じます。

高校時代、私は、自分らしい剣道というものを考えてやっていたように思います。でも今は、よく考えると、自分らしい剣道というもの自体がわからなくなっていました。そして、実はあの時も、何もわかっていなかったのではないかと、という気がしてきました。

私には、もっとわかりたい、もっとうまくやりたいという気持ちがあるのですが、続けていこうと思いません。高校時代、あれ程剣道に没頭できたことには、不思議なくらいのすごさを感じます。それは、仲間が私に与えてくれた力でした。そして、そんな仲間との良い思い出があるからこそ、私は剣道が好きでいられるのだと思います。良い仲間を得て幸せです。

今後OB会には、私たちがくらしいの若い世代も、たくさん参加してほしいと思います。

「五十才までに  
基本の確立を」

中村好和(41期)

今年もOB稽古会に出席いたし  
ました。最年長の中村です。私は上  
田中学・旧制二高・東北大と学生  
剣道で過ごしました。卒業後母校  
で外科を修練の後、新日鉄釜石製  
鉄所の附属病院勤務し、製鉄所剣  
道部の部長・部長をやりました。

その縁で地域の釜石剣道協会長  
もやり現在は岩手県剣道連盟の副  
会長の立場であります。全日本実  
業団連盟の選手の平均年齢は26  
才ですがそれらの年齢以後は教  
職員連盟でもなく警察関係でもな  
い人達で、尚剣道が好きだ、やり  
たい人々の為に、NPO国際社会  
人剣道日本クラブという組織があ  
ります。これは実業団剣道の上の  
ロータリーのようなもので全国組  
織で東北・関東・東海・近畿・中  
国・九州の六ブロックで、会社社  
長、医師、企業の中堅層などが広  
く入って居ります。毎年輪番制で今  
年は九州で11月8日〜10日と全国  
例会が開かれます。

土屋さん 今年も全国3位!

八月に日本武道館で行われた全  
国高校定時制通信制剣道大会で土  
屋美花さん(3年生)が一昨年に  
続き3位に入賞した。OB会とし  
てその健闘を祝し木刀大小を贈ら  
れた。(別紙)

五月から私が何かの縁で全国区  
の会長に就任しました。このよう  
に剣道は皆さんの高校時代からず  
っと私のような老年期に至るまで  
続ける事の出来るものなのであり  
ます。

私は自分で歩いて来ても、実は  
一向に上達は出来ませんが続けて  
やって居ります。どうか皆さんは  
あの昭和の剣聖 持田盛二先生の  
「五十才までに基本を確立する」  
のように実はこれは大変難しいも  
のと思いますが、目指して下さい。  
健康であり、継続して努力を積み  
重ねて載ければ、それだけ剣の道  
の深さに近づく事が出来るのでは  
ないかと考えます。しかし学生時  
代は試合があります。試合も剣の  
上達の一つの手段であります。又  
試合に出る以上は勝ちたい。しか  
しこれからの全剣連の方向とし  
ても、正しい姿勢、正しい剣の用  
法でないと評価されないし、基本  
に忠実な技でないと勝てない時代  
になって行くと思います。

皆さんはその様な御指導載いて  
いるものと考えます。常に基本に  
忠実な剣道を頭に入れられ、努力  
され目指して戴きたいものと切に  
御願ひ致しまして私の念願と致し  
ます。

宮下杯



勝ち抜き戦の優勝杯

昔

剣道今昔

今

東京高師主催

全国中等学校第二回剣道大会参加記事

顧問 雑感

仁木邦彦

確井の山に時雨して秋の訪れさそふ十月の廿三日、我等剣道部選手四名は伊藤先生引率のもとに始めて高師剣道大会に参加すべく勇気凛々昨年以來很多き東都に向ひて上田の驛を出發せり。

上野驛に到ればいつも乍ら卒業生諸兄等既に我等を待ち給ひてそれより千曲寮に案内下さる。實に感謝の他無し。其の夜は明日の必勝互に誓いつつ早々眠に就く。

一夜は明けぬ。戦ふべき日は来れり。  
燃ゆる血汐、高鳴る胸を抑へつつ高師の門をくぐりしは午前八時頃なりけむ。控室に入れば全国四十余校の各選手何れも負けじ面魂にて各自定められたる場所に控へたり。聽て種々の事も濟みて勝負の幕は落されたり。  
第一回戦は名も無き龍ヶ崎中學。

上田(8本)——龍ヶ崎(1本)  
八對一にて我勝利、殆ど同日の談には非ず、寧ろ氣の毒と思ひし程なりき。第二戦は関東の熊ヶ谷中學、眞田勇士何ぞ熊の如き輩に怖氣んや、即ち之をして必龍ヶ崎の轍を踏ましくれんず覺悟にて勇氣奮に倍し各自全力を盡して克く奮闘苦戦し、常に敵を壓せしが、噫天命をば如何すべき。

上田(4本)——熊ヶ谷(4本)  
にて同点となりしを以つて規定に従ひて各選手一名宛の決戦を行ひ、その戦に於て遂に惜しき一点は敵の爲めに奮はれ勝利は敵の手に歸したり。

かくして我が望みは遂に葬り去られたり。  
この時の悲!此の時の落膽!何を以て譬ふる事や得んや、實に我等は道具もちて再び其の場を立つ勇氣無かりき。只一点!只一点!しかも最後の決勝戦。

上田 熊ヶ谷  
金子——○新井  
は既に我勝ちたる勝負なりしを知らば誰か慨嘆悲痛せざらんや。

然りと雖も一考せよ。吾人は只勝敗に勝たんが爲めに此の剣道を學びたるかを、勝は敗に優る事勿論なれど勝敗は之時の運に非ずや、殊に今回の敗北の如き何ぞ悲しむに足らん。

只諸君に望む。我が愛する剣道部諸君に望む。  
我等が此の際得たる尊き教訓を必ず必ず各心銘に刻され以つて母校の爲め我が剣道部の爲め又各自の爲め其の實行に奮勵努力せられん事を。  
教訓とは他事ならず平素の「身の入りたる元氣ある練習」只之のみ。  
(校友会誌 大正九年)

この欄に文章を書くようになってから8年になる。新人戦県大会の頃が、いつも執筆の時期になる。新チームの状態が気になるのはもちろんであるが原稿用紙に向かいながら頭に浮かんでくるのは、受験勉強まっ盛りの3年生と、今春卒業した諸君たちの顔である。

卒業した中澤主将のチームは県2位にまでになった。男女共に北信越大会を経験した。現役で国公立大学に8人合格した。(これは本校合格者の一割を占める)まさに文武両道を実践した学年であった。

現3年上原主将のチームは、苦しみもがいた。男子は3つあった東信の優勝杯を全て返還してしまった。女子は代表戦で北信越大会を逃がした。チーム内・個人的にもいろいろな問題があり、ミーティングを重ねた時期もあった。中学浪人した者が4人いた。県大会の会場でみんな大粒の涙を流していた。——苦勞した分、幸福は手に入れられるはずだ。今すぐでなくとも、5年後10年きつと報われる時が来る。そう信じてたゆまぬ努力を続けてほしい。少なくともかけがえのない仲間と過ごした3年間は決して消えないのだから。

- 戦績
- 13年 高校新人体育大会 県大会
    - 団体戦 男子1回戦 女子ベスト8
    - 個人戦 女子竹花ベスト8、西澤・小泉1回戦
  - 14年 高校総合体育大会 東信大会
    - 団体戦 男女共に3位
    - 個人戦 女子竹花2位、西澤4位、守・中原ベスト8
  - 14年 高校総合体育大会 県大会
    - 団体戦 男子予選リーグ2位、女子ベスト8
    - 個人戦 女子竹花ベスト8、西澤・守・中原1回戦・男子1回戦
  - 14年 北信越高校剣道大会(福井県)
    - 女子個人戦 竹花1回戦
  - 14年 全国高校定時制通信制剣道大会(日本武道館)
    - 女子個人戦 土屋3位
  - 14年 東信高校選手権大会(学年別個人戦)
    - 2年男子 新井・金野3位 1年男子 小林1位
    - 2年女子 中原3位 1年女子 石井3位
  - 14年 舞台が丘剣道大会
    - 男子ベスト8、女子3位
  - 14年 東信青少年剣道大会(彰劍旗)
    - 男子4位、女子ベスト8
  - 14年 高校新人体育大会 東信大会
    - 団体戦 男子3位、女子ベスト8
    - 個人戦 女子中原3位、大森4位、守ベスト8
    - 男子金野・小林ベスト8
  - 14年 高校新人体育大会 県大会
    - 団体戦 男子2回戦、女子2回戦
    - 個人戦 男子金野・小林1回戦
    - 女子中原2回戦・大森・守1回戦



ネバギバ根性

金沢大学法学部  
松田ひかり(100期)

「バカでも、アホでも、落ちこぼれでもいい。  
でも夢だけは諦めるな」

高校時代、正に私自身が落ちこぼれだった。だからこそ書ける思いがあるかもしれない。少しでも後輩の役に立てるなら、恥もバカも正直にさらけ出そうじゃないか。そう決意してこの原稿を引き受けた。

私は三年間、剣道班に所属していた。初心者でスタートしたせいもあって、毎日の稽古は辛い事が多かった。班活の疲れと、自分のだらしなさのせいで私はほとんど勉強らしい勉強をしなかった。言うまでもなく、私はどんどん落ちこぼれていた。成績もどん底まで落ちた。自己嫌悪の毎日。それなのに中身の無いプライドがいつまでも私の心を占拠して、自分が落ちこぼれた原因を忙しい班活や家が遠いせいにした。そうやって私は努力をしようとしないうち自身から目を逸らし、逃げ続けた。でもあの日、私の弱くて卑怯な心は顔面パンチをくらってやっと目を覚ました。忘れもしない退部事件……。

一年の後半期。二度目の追試で私は剣道班から追い出された。中身の無いプライドは、ぼろぼろと崩れ落ち、残ったのは弱くて情けない私の本当の姿だけ。悔しくて悔しくて、自分が嫌で涙が止まらなかつた。もうどうしようもないと思った。先生に呼び出されて悪い所を指摘され、その通りだと私は泣くしかなかった。でも、その先生は話の最後にこうつぶやいた。「お前ならできるよ。」私はもう本当にぐしゃぐしゃになって泣いた。そこからすべてが始まった。

こんなドラマチックな事があったからと言って、まるっきり変わったわけじゃないけど、私は前より少し強くなった。成績も大して上がったわけじゃない。が、あの時味わった悔しさが「夢だけは絶対諦めない」という気持ちを強くした。(中略)

この奇跡は、いつも私を励まし暖かく見守って下さった先生方と友達と家族の御陰である。だから、私は言いたい。成績が悪いくらいでそう簡単に自分の夢を諦めないで。そしていつまでも感謝の気持ちを忘れずに。受験がすべてでない。受験はあくまで、夢実現のための第一歩に過ぎないのだ。もっと大切なものがいつも自分を支えてくれていることを忘れてはならない。(後略)

『上田高校 平成14年度進路のしおり 合格体験記』より転載

OB会に出席して

竹内茂直(72期)

今年は上田高校剣道班OB会の結成10周年とのことで、6月22日「上田温泉ホテル祥園」での記念OB会に私も出席させていただきました。

当日は懇親会に先立って64期の宮坂信之先輩による記念講演が行なわれました。

「生活習慣病について」と題したご講演は、東京医科歯科大学教授として活躍中の先輩による、わかりやすい内容のお話でした。私も剣道班に在籍していた頃から早や20数年、気付いてみると体に良いことなど何もしていないこの頃を反省させられ、健康管理について考えることのできた貴重なひとときでした。

引き続いての懇親会ではOBのプロによるマジックショーなどもあり、和やかななかに飲み、語り、懐かしい剣道班時代の思い出に浸らせていただきました。

また、翌23日は「浅間高原カントリー倶楽部」にて記念ゴルフコンペが開催されました。OB有志の参加者一同はかつての竹刀をゴルフクラブに持ち替え、好プレー、珍プレーも交えながらゴルフに興ずる一日を共に楽しく過ごすることができました。

事務局の皆さまには2日間わたる記念OB会の準備運営本当にご苦労さまでした。

10周年を節目として剣道班OB会の活動が益々盛り上がっていくことを期待しております。

郷土の剣士

新井守太郎

下

昨年の本紙で郷土を代表する剣士として、明治時代に活躍した堀内亀之助、小野田伊織を紹介した。今回は大正・昭和に上田で上中師範の伊藤長三先生とともに剣道発展に中心的役割を果たされた新井守太郎先生を取り上げたい。武徳会上田支部設立、上田武徳殿建設の推進力となり上田地区剣道界に大きな功績を残された氏について、自叙伝『喜寿の安由身』(昭和三五年、上小剣友会刊)によって足跡をまとめてみた。明治一七年更級郡更府村(現長野市信更町)に生まれ日露戦争に従軍負傷する。兵役免除後、長野県警察に在職十年、この間「鬼の柴田」の異名のある柴田克己師範(旧高田藩士、山岡鉄舟直弟子、西南戦争で抜刀隊を率いて転戦)に師事し剣道を学ぶ。その後、宮内省に奉職し京都詰めとなり大日本武徳会本部にてさらに修業を重ね、東京詰めになった三年間は皇居内の濟寧館にも通われた。退官後、昭和四年上田に帰られ武徳会支部設立に奔走され昭和七年の築城三百年祭中に、上田中学校で発会式が行われた。その傍ら小県蚕業学校剣道教師松原大造、上田中学校剣道教師伊藤長三(『剣風』三号で特集)先生らと警察、学校での指導に努力され、昭和一四年、甲田作衛上田中学校長より感謝状を贈呈される。また、両先生らとともに京都での武徳会に何回も出場し天覧試合にも出場された。

昭和一三年に上田公園内に完成した武徳殿設立に際しては、その中心となって努力された。完成後はここが上小地方の中心的道場となり多くの若き剣士が諸先生方の指導のもと稽古に汗を流し技を競った。戦後、昭和二三年に松原、二四年に伊藤の両先生が亡くなられた後の二五年に新井先生は千葉県流山市に転居され余生を過ごすこととなる。剣道禁止が解除された二七年、上小剣友会が発足するや参与に推挙され、その後も上田との関係は続いた。『喜寿の安由身』の刊行の辞で小宮山太助剣友会会長は「先生は敬神崇祖の念厚く永年に亘り御歴代の皇陵や由緒ある神社に詣でられ、老剣士として相応しき古武士の生活を続けて居られる」と記している。また、この書の中では戦前から戦後にかけて剣道を愛しその発展に努力された長野県・東信・上小地方の剣道人の略歴、剣歴がまとめられており、その中には金子行徳、小宮山太助、春原新三郎、塚原忠雄、依田嘉人、中島益雄、永井要、宮下力、上原正之助、金子八郎、水野春海、松崎久、工藤善一郎、山内英作、大石治、村田文明、井出伊織、山内輝子など我々とも関係の深い諸先生・諸先輩の名前が見られる。

いま、この稿を書いているわたしの脳裏には審判席に座って居られる、長い白髯をたくわえ羽織袴の晩年の新井先生の姿が鮮明に浮んでいる。

完  
(羽田敏幸 61期)

会員のひと言「コラム」

44期 大久保 美 昭和19年9月 上田中学校校庭で送別会を催して...

57期 三井宣夫 OB会10周年おめでどうございます。いつも遠方の私までご連絡を頂き恐縮して...

66期 秋山信悟 一昨年9月に札幌で単身にて仕事しています。

73期 高松理利 ご無沙汰しています。娘が上田高校に入学したので、何十年かぶりで母校及び剣道部の練習をみてまいりました。

73期 山浦雄 小さな中学校の保健体育を担当し、今年1月新雪のグラウンドで念願の剣道雪中稽古を実現しました。

74期 山田恒昭 昨年秋より二十数年ぶりに段審査に挑戦し、今年三月四段に合格できました。稽古して頂いた皆様に感謝しております。

76期 松井 敦 スポーツ少年団で教えるようになってしまいました。

81期 八尋岳美 昨年から子供、(小4男)が剣道をはじめました。小さな団体でのんびりやっています。

82期 桜井 憲なつみ 今、佐久市の小平道場の近くに住んでいますので、前を通るたびに懐かしい思いをしています。

83期 両角達男 長野と静岡を行き来しています。私は剣道から離れていますが、長野県内の学校との連なが徐々に深まって来ました。

戦後剣道部の再興

毛利義範(55期)

私が堀内三喜男君から剣道クラブを作りたいと話を持ちかけられたのは、高一の終わりか高二の始めのころだともう。彼は近所の道場に通い、既に二段の腕前であった。

なぜ？私に剣道クラブの話をしたのか、はっきりしないが、中学時代に大病したことの話を堀内君にしたのが原因かもしれない。剣道について彼は年令に関係なく生涯にわたってすることができるとスポーツであると熱く話したのが、なつかしい。

クラブ立ち上げで最初に紹介された人が、皆さんご存知の桑澤先輩でした。

三人の役割分担は、先輩と堀内君は指南役を、私はマネージャー役をすることになった。まず最初

に、顧問の先生を決めなくては行けない。荒木先生、横谷先生にお願いしたところ快く引き受けてくださった。

さて、メンバーの募集についてはどのくらいの数になるのか、大変心配しながら行った結果十数名の応募者があり、安堵とうれしさで胸が熱くなった。

クラブの練習場は旧剣道場の建物で、既に体操と卓球の両部が使用しており、北側の一部を使用する交渉は上級生相手に苦しんだが、必要最低限度のスペースを確保することができた。

剣道の基礎稽古も順調に進み、防具が必要になってもクラブには無かった。新設クラブで実績もなく学校からの予算配分にあいつけなかった。とにかく必要なのは準備しなくてはならないので、メンバーや親にお願いをして寄付金を集めた。桑澤、堀内両指南役に相談して中古品を取り敢えず用意

することになった。私は電話帳で上田市内の古物商を調べ、十数件の店を自転車で行きまわり捜し求めた。埃りだらけの竹製の胸が三つか四つ、虫に食われて穴だらけのコテ、埃とサビで汚れたメンなど修理しながら大切に使用したことは忘れられない。

クラブ一期生は早く部に昇格し、一人前の部としての認知を得るために稽古に精進した。対外的な成果を得るようになり、一年後の31年にめでたく部を結成することができた。

松尾に剣道部誕生のニュースも徐々に伝わり大先輩の依田先生や塚原先生がかけつけてくださり、稽古をつけていただいたことはなつかしく、よい思い出となっている。

来年度のOB会は6月21日(土)です。

れませんが、あきらめなければ何度でも挑戦することができ、今までがんばってきた事を無駄にしないためにもとても大切なことでした。そしてその気持ちを支えてくださったのが、顧問の先生方、チームの仲間達そしてOBの先輩方との稽古そして声援でした。

私の高校での剣道は終わりましたが、剣道で培った感謝の気持ちを常に持ち、一度抱いた目標を安易にあきらめることなく、各自の道を歩んでいこうと思っています。三年間ありがとうございました。

「現役生の声」 班長 上原巧也

剣道に出会い、続けてきて本当に良かったということが今素直に感じる事です。これまでに多くの人と剣を交え、様々な経験ができたからです。

私は二年の六月に班長となりましたが、どこか気持ちに足りない所があり、自分のことで精一杯で、それが班員にも伝わったせいか、いま一つみんなの心がまとまらずチームとしての良いスタートが切

編集後記

剣風は10号を迎えました。OB会発足十年記念号です。この記念すべき年に優勝カップが二つ誕生します。宮下杯と命名されました。(二面写真)例年行われていた、総会前の稽古会の時間をつかい、一年〜三年生混合の勝ち抜き戦を行い、男女の優勝者に夫々授与されます。

一面でお伝えしましたように今年四月五日、宮下力(38期)OB会顧問が逝去されました。春岳院力警格心居士位

その後拙宅に奥様のご訪問を受け、居士の生前のご意志として、OB会に高額の寄付を頂戴しました。以来役員会で、使途を考えて参りましたが、宮下先輩は竹刀をとって厳しい稽古をつけて下さった方ですので、現役生の試合の場をつくろうと意見がまとまりました。

来年の稽古会には立派な優勝カップ獲得を目指して試合をしても構いません。現役生は楽しみにして下さい。OB諸氏はぜひ見学にお出かけください。

新年会のお知らせ

日時 一月二日 午後六時 会場 ホテル祥園(上田温泉) 当日は午後三時より 上田高校第二体育館にて OB・現役生合同稽古を行います。

問い合わせ先 井出 聡(97期) 090・4090・70007

会費(三千元)納入は十二月末日までに

住所変更の方は事務局へご連絡下さい。事務局 羽田敏幸 0268・24・7732 386 0032 上田市諏訪形一五七七・三